

# イチヨウ

にほんの  
よみかた

いちよう

29

## イチヨウ科

名前のゆらい

- イチヨウは中国語でアヒルの足(鴨脚)をイチヤウとよむ。これがへんかしてイチヨウとなった。



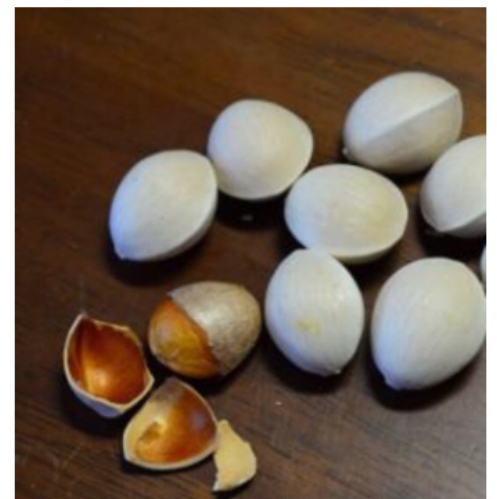
イチヨウの見分け方

- 種はギンナンとよばれ、10月～11月に熟し、外がわの皮が黄色くなり、変なおいがる。
- 葉は2まいの葉がくっついてるような形で、葉はツルツルしている。



そのほか

- 種はギンナンといい、かたいカラの中にふくまれる発芽するための養分が食用となる。食べすぎると食中毒をおこす。



イチョウ		和名	銀杏		29
		別名	ギンナン、公孫樹、鴨脚木		
分類	科 (APG分類)	イチョウ科	属	イチョウ属b	
	科 (旧分類)		属		
	科 (旧分類)		属		
名前の由来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチョウは中国語でアヒルの足「鴨脚」を「イチャウ」と読む。これが訛ってイチョウとなる。</li> <li>・「銀杏」ギンナンと読み、種子が白く「ギンアン」が転訛してギンナンとなった。</li> <li>・「公孫樹」 長寿の木であり、祖父(公)が植えると孫の時代に実がついて食べられる。</li> </ul>				
樹木の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国産の落葉高木。街路樹や公園樹などで植栽される。種子は土に埋めて外皮を腐らせて取り除き、食用、薬用にする。外皮にかぶれ注意。</li> <li>・雌雄異株で、花期は4～5月、短枝に束生し、葉の展開と同時に開花する。 雄花は尾状の円柱花序で、雄しべが螺旋状につく。雌花は細長い柄の先に胚珠が2個付き、普通そのうちの1個が成熟する。</li> <li>・種子は銀杏と呼ばれ、10～11月に熟し、外皮が黄色くなり、悪臭が漂う。中種皮は白色で硬く、2～3稜がある。</li> <li>・樹皮は灰白色で、コルク層が発達し、不揃いに縦に粗く裂ける。</li> <li>・葉は長枝では互生し、短枝では輪生状につく。葉身は薄い革質で、扇形。葉の縁は波状となり中央部が切れ込むが、それが無いものもある。葉の表面は緑色で、二又に分かれた葉脈がある。葉の両面は無毛。</li> </ul>				
用途・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチョウは生きている化石である。</li> <li>・種子は銀杏といい、硬い殻の中に含まれる胚乳が食用となる。食べ過ぎると食中毒を起こす。</li> <li>・街路樹については、雌株の種子(ギンナン)が悪臭の原因となる場合があるので、果実のならない雄株のみを選んで植栽されることが多い。</li> </ul>				

